

サロンあべの

VOL.181

素敵な出逢い、「みかん」を聴導犬に



へサロン・あべのの6月の出会い

平成13年6月16日(土)へサ

ロン・あべのV6月の出会いは、
聴導犬「みかん」と共に生活さ
れている岸本宗也・淑子夫妻に
お話を伺いました。

聴導犬とは

聴覚に障害を持つ方の日常生活を手助けする犬。さまざまな音を自分で聞き分けて、それに対応した行動を犬自体が判断し聴覚障害者に情報を伝える役割を担う。

玄関のチャイムやFAXの音、洗濯機終了の音、病院や銀行へ行った時には受付に預けておいた鈴の音などを教えてくれる。

聴覚障害者の生活に必要な音を前足で知らせ、音が生じた場所へ誘導する。火災報知器・煙報知器などの時は、伏せの姿勢

をして危険に気がつくまでその場所を動かさず、聴覚障害者に報せる。

きっかけ

阿倍野区報に載った「聴導犬希望者募集」の記事を岸本さんの娘さんが見つけた。

内容は、阿倍野ロータリークラブが創立20周年記念の活動として、社会貢献活動を行う団体へ助成金を出すことになり、阿倍野区在住の聴覚障害者に貸与される聴導犬の育成費を助成するというもの。

早速、区役所に申請に行き、長野県に本部のある日本聴導犬協会とも連絡が取れ、いろいろな条件もあったが交渉が成立した。

聴導犬「みかん」との出会い

現在、「みかん」は、「岸本さん夫妻の二番目の娘」として暮らしている。

「みかん」は捨て犬だったが、生後4〜5カ月の頃、茨城県で保護された。テレビで聴導犬のことを知っていた人が、日本聴導犬協会へ1999年3月に連れて来た。6カ月間、ソーシャライザーの家に社会化のために預けられ、一般生活を送る。その後、4カ月の本格的な訓練を受けた後2000年2月に岸本さんと出会う。

人と犬の絆とは

岸本さんが「みかん」と合同訓練のため2000年2月、長野県の日本聴導犬協会に2週間泊まり込み、「みかん」と寝食を共にする。この訓練で一番大切なことは、犬と信頼関係を結ぶ「絆作り」だと協会代表の有

馬もとさんに言われる。

「早く『みかん』ちゃんと仲良く一緒に暮らしたい」と思ったが、絆作りの難しさは、その後の訓練の中にもはつきり表れた。訓練の先生の指示には従うが、自分の指示には反応がない「みかん」と一対一で根気強く訓練をしていくと徐々に信頼関係が生まれていった。一度は人に捨てられた「みかん」だが、今は岸本さん一家と深い絆で結ばれ、人を助ける聴導犬として立派に役立ち生きている。

日本で初めて聴導犬認定

2000年11月、英国聴導犬協会の責任者アンソニープラント氏の来日により6地区での講演会があり、この時聴導犬の国際レベル認定試験に「みかん」と岸本淑子さんが受験した。この試験は半日かけて行われた。

1. 音を報せる能力

2. 聴覚障害者との絆

3. 社会的マナー

の3視点で、査定される内容は40項目もあった。

「みかん」の場合、岸本淑子さんが講演会に同行したので3日間にわたっての査定になった。ホテルでの会食や宿泊場所でもマナーの良さを絶賛され、結果はエクセレント(最優秀)となり聴導犬として見事合格した。「聴導犬になれる犬の種類は問われないが、気質の良い犬の中でも、聴導犬になれる犬は300頭に1頭ほどしかない。現在、活動している聴導犬は岡山と名古屋と大阪にいる3頭だけ」—この話からも「みかん」が聴導犬としていかに秀れているかがわかる。

聴導犬の普及状態

盲導犬に比べると聴導犬に対する社会の認知度はまだ低い。盲導犬は、育成団体が発行した使用者証を持っていけば事前の入店手続きは必要ない。JRへの乗車も同様である。ところが

聴導犬は初めて入店するには、先方の「許可」が必要である。受入側も犬のしつけ状況など、個別審査せざるを得ない。障害者の生活を助ける犬としては、物を拾ったりする介助犬もいるが、聴導犬と同じような状況に置かれている。聴導犬や介助犬の認知度を高め、普及していくには、皆様のご支援・ご協力が必要。よろしくお願い申し上げます。

参加者からの

「日常生活の音を知らされる以外に何か？」

との問いに、岸本さん夫妻は、「『みかん』は私たちを、音が聞こえなくて不安で緊張した毎

日を安心できる毎日に変えてくれています。それに、道を歩いていると、声をかけられることがふえて、さまざまな人との出会いや、楽しい時間がふえました」と。

参加者の皆様より、日本聴導犬協会へのカンパのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。ございました。

また、手話通訳の松村さん、山本さんありがとうございました。そして、「みかん」ちゃんお疲れ様でした。

参加者47名と一頭(山村貴司)



岸本みかんちゃん

こんにちは、かよです。 みかんの妹です。

はじめまして、「かよ」です。「みかんちゃん」がお世話になっていきます。

5月から千葉で働いています。ワタシだって「みかんちゃん」みたいに、JRの試験に受かって、お母さんと一緒にあちこち行きたいです。だから、3カ月後にはJRの試験に申し込みをします。西日本じゃなくて、JR東日本のね。がんばるわ。

ワタシ、南信州の飯田市の小学校の近くの焼却炉のそばに他の2頭と一緒に捨てられていました。小学生が助けてくれなければ焼却炉の中で死んでいたかもしれない。「みかんちゃん」の活躍で、ワタシたちみたいな犬たちにも、能力があることを理解してもらえればいいなあと思います。

ワタシのお母さんは、おしゃれでちよつとだけアグネス・ラム(若い頃の話だけに似ている?かな。お父さんはすごくハンサム。岡山県出身でパラリンピックでヨーロッパに行つたこともあるつて。スゴイでしょう?二人ともワタシのことほんとうの子供みたいに思つてくれます。ワタシも二人のお役にたてるのがうれしいです。

協会はね、アフターケアにもすごく力を入れていて、今も毎月のように、千葉へ様子を見に来てくれています。大事に育てられたワタシたちについて一生責任を持つことが協会の使命だし、当然のことだと考えます。こうやって、お母さんたちと巡り合えてとても幸せです。

これもみなさまのご支援の賜物です。感謝申し上げます。かよ。と共に今後ともよろしくお願い申し上げます。

朗読テープの案内

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙一八〇号の録音テープ(六〇分)が出来ました。

朗読テープ文庫

I (サロン・あべの)紙は、第一号より一八〇号までそろっています。(五〇号は九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は一二〇分テープ二本)

II (サロン・あべの)十周年記念誌「は」とが、はろー!」(九〇分テープ二本+一二〇分テープに収録)

III 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)「ラジオたんば」放送(サロン・あべの)平成七年五月の出会い」放送分(三〇分)

IV エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランテア活動の周辺」(岡本栄一著)糸でんわ音訳

V 「キミたちだけが困るんだ」身障者だけで旅した十余年」(山田誠1995・2・22著)糸でんわ音訳

VI 「金子みすずへの旅」(島田陽子著・九〇分テープ二本)糸でんわ音訳

VII 「タヤけ空のオニヤンマー」(牧口一二著・九〇分テープ四本)糸でんわ音訳

VIII 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著・九〇分テープ五本)糸でんわ音訳

IX 「セルフヘルプグループ」(岡知史著・九〇分テープ二本+二〇分テープ)糸でんわ音訳

XI 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作)難波利三監修・大阪市立天王寺図書館制作

XII 「知らされない愛について」(岡知史著・九〇分テープ二本)ほけつと音訳

XIII 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著・九〇分テープ二本)糸でんわ音訳

XIV 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著・九〇分テープ二本)糸でんわ音訳

XV 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著・九〇分テープ二本)糸でんわ音訳

いづれもご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田までお申し出ください。

(800)六・六六九一・二〇〇〇

もっと聴導犬を知ってほしい

柴本実華

日本では、年間約六十二万頭の捨て犬・猫が処分されている。このことを知っている人は、そう多くないと思う。私は、とにかくこの事実を広めなければ、と思った。そこでまず、学校にこのことを書いたポスターのようなものを貼らせてもらえないかと、担任の先生に相談した。

「クラブ、つくりい」

と、言われた。この時、高校二年の三学期であった。そして、本当に「ボランティア同好会」を作ってしまった。

三年生になり、いよいよ活動開始。まずは新聞を作ることにした。

ボランティア同好会は、三年生六人、友達が集まって出来た。全員三年生で、ほとんどが他のクラブとかけもちでやっている。だから、なかなか全員が集まらず、新聞作りはあまり進まない。

新聞の内容は、

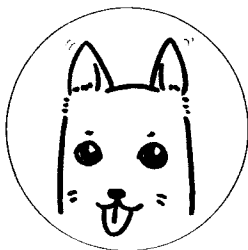
○捨て犬・猫問題

○聴導犬について

この二つのどちらか、ということになった

た。順番的に、前者が先だ。初めに、「日本ではわかっていてるだけで、年間六十二万頭もの捨て犬・猫がいる」ということを知ってもらい、次に「でも、救える方法がある。聴覚障害者のパートナーとなる聴導犬に育てるといふ道があるのだ」と、このように、関連をもつて、知ってもらおうということだ。それから、聴導犬を取り上げたのには、もう一つ理由がある。日本では、聴導犬はあまりよく知られていない。だから、聴導犬とはどんな犬なのか、詳しく知ってもらおうと思ったのだ。

新聞第一号を作成中に、ボランティア情報誌を見た。(サロン・あべの)の六月のテーマは、「みかんを聴導犬に」であった。私は、新聞第二号のために参加することにした。(実は個人的にみかんちゃんに会いたい、ということもあった)



みかんちゃん——
ちよつと眉毛があるのが
かわいかったです。
……柴本実華

六月十六日、友達と二人で参加した。聴導犬との生活について、新たに知ったことがたくさんあった。そして、みかんちゃんのユザー・岸本さんは、ボランティア同好会からのたぐさんの質問に答えてくださった。「みかんちゃんは、貸与という形なので、いつか聴導犬協会に返さなければいけません。私が……？」の質問には「交渉次第で引き取ることが出来る。みかんちゃんが死ぬまで、ちゃんと面倒みたいと思ってる」とのお答え。

実は、これが一番訊きたかったことである。一緒に生活していると、聴導犬はもう、家族である。だから、聴導犬として働けなくなつたから、と、手放すのは、とても辛いと思う。それに、最後まで面倒をみるのは、当たり前だと思ふ。役に立たなくなつたからと、手放すなんて「機械ではないのだから」「飼い主」としても責任をもってほしいと思う。だから私は、この協会の「貸与」という制度に疑問をもつていた。でも、交渉次第で引き取れると聞いて、少し安心した。岸本さんのお話も参考にして、新聞を作り、先生方、生徒に、聴導犬を知ってもらおうと思う。

障害者の雇用と 就労を考える

障害者雇用を再考する理由

2

茅原 聖 治

障害者の雇用に関しては、戦後間もない

一九四九(昭和二四)年に「身体障害者福祉法」が制定され、その第一条で「この法律は、身体障害者の自立と社会経済活動への参加を促進するため、身体障害者を援助し、及び必要に応じて保護し、もって身体障害者の福祉の増進を図ることを目的とする」と述べて、障害者の経済活動への参加が法の目的の一つに据えられた。そして、一九六〇(昭和三五)年に「身体障害者雇用促進法」(現在「障害者の雇用の促進等に関する法律」へ改名・改正)が制定された。このように戦後の早い時期から障害者、特

に身体障害者が働くということ、既存の経済システムに組み込もうと意図することに特段の配慮が払われてきた。しかし、現実には働くことができるようになったのは機能回復訓練や職業訓練などにより、生産能力が回復し、経済的自立が可能な軽・中度の身体障害者に限られていた。言い換えれば、生産能力がない、もしくは低いと考えられていた重度の身体障害者や知的障害者に対する就労支援は皆無であったと言つてよいだろう。それが現在の状況にまで持ち越されている。

歴史的経緯については後に詳細に説明するとして、しかしながら、今なぜ障害者の雇用を再考することが必要なのだろうか。二一世紀を迎え、私たちの生きる日本の経済社会は変化してきている。例えば、ますます発展の途にあるサービス業などの第三次産業、この十年間の間に急速に進展したコンピュータ機器とインターネットに代表される電子ネットワークおよびソフトウェア産業、高齢化社会の現出と進展、ノーマライゼーションや自立生活思想などの新しい福祉思想の登場などがそれである。それ

にも関わらず、障害者が雇用されるということに関しては先に述べた旧い考えに基づいている。そこに、働きたいと考えている障害者と雇いたいと考えている企業との間にミスマッチが生じていると考えられる。このミスマッチを解消するさまざまな方策が、「障害者の雇用の促進等に関する法律」により講じられている。例えばその代表的なものが法定雇用率制度である。平成一三年現在、民間企業は全従業員の一・八%の障害者を雇い入れなければならないが、この制度の下でも障害者雇用はまだまだ低水準であり、法定雇用率未達成企業は五十五%を超えている。

これはなぜか。障害者の福祉に関する思想は変化してきているのに対して、障害者雇用の思想は昔のままであることに問題があると筆者は考えている。それは「障害者は低生産的存在である」という思いこみに基づくものである。したがって、障害者雇用を転換する新しい価値観の創造がこれからの障害者雇用にも最も有効なのではないだろうか。次にその一つひとつの要素について考えていきたい。

★片付いてきた

このコラムに書くネタが無くなるたびに「片付かない」という題の文章を書いできた。それほど部屋のなかが片付かないことが私の長年の悩みだった。

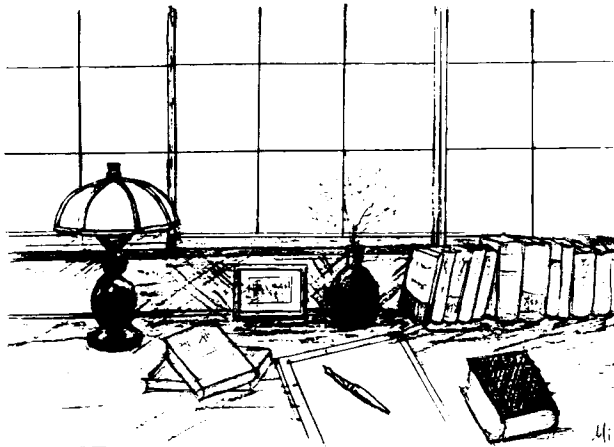
最近、たとえネタ切れでも、そういうことは書かなくなった。というのは、なんと、片付いてきたのである！ただ、片付いてきたとしても、ここに報告するほどのことではないと思って書かなかつた。しかし今日は、それを書こうと思う。なぜか。

実は、先日、ある人の仕事場を訪れ、あまりの乱雑ぶりに圧倒されたのだった。部屋中、書類棚ばかりで、しかもその棚からはいまにも崩れそうなくらいに書類が無造作に積み上げられている。

悪臭こそなかったものの、私は頭痛がするほどの圧迫感と息苦しさを感じた。こんな部屋に私はものの十分間もいたくないと思った。押し入れのなかで遊んでいて恐くなったことを思い出す。あるいは、

は、紙くずのいっぱい詰まったゴミ箱のなかに迷いこんだ哀れな虫になった気分だった。

いたたまれなくなって、私は、なんとか言い訳を見つけて、その部屋から出たのだが、考えてみれば数年前の私の部屋も似たようなものだった。きつと当時の



私の部屋の来客も、同じように感じたに違いない。

あとになって私が圧倒された理由を考えてみると、あれは書類の山の光景が残している「言葉」のためだったと思う。つまり書類の山は、私にはこう言っているように見えた（あるいは聞こえた）。

「さあ、これだけの用件がありますよ」「あなたが処理しなければいけないことはこんなにも溜まっています」「大事なことがこんなに多く、取り残されたままですよ」。書類たちのこのような「叫び」が私の目と耳を押しつぶしたのである。

もちろん、このような書類の山が、部屋の持ち主に対して「言葉」を実際に発するわけではなく、それを見た人間のほうで、自分の内面の「声」の反映として、勝手に「言葉」あるいは「声」を聞き取るのである。であるから、たとえば書類の山の代わりに一輪の花が生けてあれば、それを見た人は花の「声」を聞き取るこ

とができる。つまり「ひと時の美しさに心を休めよう」「心に余裕をもって、花の香りを楽しもう」という「言葉」を耳に受けることができる。

したがって、結論を言えば、部屋を片付けることは素晴らしいということだ！私は長い間、部屋を片付けることは、生産的な仕事や積極的な楽しみにつながることはない、必要だが、全く無駄なことだと思っていた。つまり、仕事をしたり生活をしたりと必ず部屋は再び乱雑になる。整理整頓など、積んでも積んでも崩れてしまう積み木のようなことだと考えていた。

しかし、私たちは（少なくとも私は）乱雑なものを見ると、それを叱りつける自らの内面の声を聞いてしまう。片付けよ！このままにしておくな！という言葉を受け取ってしまう。だから、心の健康のために片付けは必要だ。片付けることは積極的な生き方なのである。（知）

私の消夏法

梅雨が明けると、今年もまたきびしい暑さの季節が訪れる。

私は冬の寒さもきらいだが、少し動いただけで全身から汗が吹き出してくる夏の暑さもどうも苦手である。冬は冬の良さを味わい、夏は夏の良さを感じながら過ごすようにすればいいのだが、私はそれになかなか順応することができない。要するに忍耐力に乏しく、わがままであるということとは自分でもよく分かっている。

それにしても「消夏法」ということばはあっても「消冬法」とか「消寒法」ということばがない。だから寒さを防ぐのはストーブやヒーターなどの暖房器具を使用すればいいのかも知れないが、夏はいかに快適に過ごしていくのか工夫する必要があ

晴れのち晴れ

③4

稲垣 恵雄

る。

暑さをしのぐ方法として扇風機やクーラーを使用すればいいのだが、これではあまりにも能がない。わが家ではまずカーテンや座ぶとんを冬物から見ると涼し気なものを取り替える。そして強い日差しを防ぐためにすだれやよしずを立てたり、朝夕には門前や庭に水を打ったりして少しでも暑さを和らげるようにしている。

このようにさまざまな消夏法はあるが、わが家でもっとも重視しているのは、六月のはじめ頃から軒先に風鈴をつるして、りん、りん、りんとも鳴るその音を楽しむことである。短冊に拙句を添えて……。

風鈴の軽やかな音に風を知る

恵雄

植物あれこれ

第三十回

山口康二郎

ふるさと(1) 松

二〇歳でアメリカに渡ったクラスメイトのK子さんが、お墓参りで帰郷するので同窓会をするという報せが届き、浮き浮きしながら帰郷の途につきました。郷里は広島県府中市です。ご存知の方もいらっしやると思いますが、府中家具が全国的に有名です。

もっともわたくしの住んでいた所はのいちばん北の外れで、山間を川に沿って県道が一本はしり、その両脇の土地と比較的ゆるやかな丘陵地に点々と人家があるという、典型的な山村です。わたくしが故郷を後にして十年ほど経ってから町村合併により市になったと記憶しています。

奈良に住んでいる旧友に誘われて、雨混じりの天気の中を高速バスで福山に向かいました。車窓から見る梅雨真っ只中の山の景色は濃淡入り交じった緑であるはずと、

目をやると、意外にも褐色がやけに多い。正体は立ち枯れの松の林立でした。樹齡三〇年以上の松で生き残っているのは皆無といつてもいいくらい無残な姿をさらしていました。

四五年前、故郷を後にした時、各駅停車の車窓から見た赤松林と重ね合わせてその変わりように今更ながら驚いてしまいました。幼い頃の周囲の山は赤松に覆われ、秋になれば松茸取りでどの家も大忙しで、我が家の近くにあった松茸集荷場は、毎朝、松茸が山と積まれていたのです。

松は人間の手が入らなければ少しずつ壊れていくことはしていましたが、この山の姿は想像以上でした。

「松林はプロパンガスに追われた」といわれています。森林が国土の六六%の日本は太古の昔から森林から大きな恵みを受けてきました。落葉は貴重な堆肥に、枯れ枝は燃料に、成木は建築材に利用されていま



Mi

した。

それが昭和三〇年代以降、化学肥料ができて堆肥が不用になり、都市ガスやプロパンガスが普及して日本の森林は人間にとって不用のものとなってしまったのです。

しかし、人間が見捨ててしまった森林からの手痛いしっぺ返しを今受けつつあります。その一つが松茸の激減です。松茸はやせた土地の赤松の根に良く生えます。落葉

が放置され土地が肥沃になれば数年のうちに常緑広葉樹にとって代わられるのです。

わたくしが故郷を去ったのは、昭和三一年でした。数年後にプロパンガスが全国津々浦々まで普及したのでした。

誰の思い出の中にも松のある風景が出てこないことはないだろうと思います。どんな小さな庭でも松は主役です。日本人にとって松は景観の基本である植物なのです。

感謝

カンパ、切手、はがき、さろん亭用品、

冊子、ビデオ、お茶、お菓子等、またサロングッズのお買い上げを、ありがとうございます

F・A、秋本美智子、伊勢多英子、

磯崎章一、植松菊雄、大賀由佳、

大北清子、岡本富士子、奥田久子、

岡賀寿子、西面壮一、杉山篤枝、

砂脇タケ子、竹村定子、田村昌子、

永堀厚子、日本聴導犬協会、表谷恵美子、

藤井さゆり、松田峰子、三好桂子、

村木博子、山根匡子、山本篤江、

吉原和郎、その他の方々、

美智子のこんな話

岸田美智子

「み・らいず」

少しおもしろそうなグループ「み・らいず」が誕生しました。スタッフの皆さんはとても若くて、やる気満々な人たちです。これからいろいろな面で力をつけて地域に根ざした活動が期待できそうです。

皆さんも、応援してあげてください。

「み・らいず」

地下鉄四つ橋線「住之江公園駅」③番出口を出て南に5分。「トイザラス」や「フレンドリー」などを通りすぎ、「南加賀屋の

大きな交差点を渡ると、左手に「南陵住宅ビル」がある。その3階に「み・らいず」事務所がある。

南陵さんの善意により開所したこの事務所、3階までは階段しかないのだが、「電話一本でこちらから伺います。ご希望があれば車いすもさげて3階までお連れします」とのこと。体力とやる気には自信があるという。今年旗揚げした新生団体です。

「み・らいず」はもともと3年前にガイドヘルパーが集まって、障害を持った人たちと一緒に余暇活動のイベント企画をしていた「さあ！来る家」から生まれました。サークル規模で活動していたメンバーが何とかこれを職業として、社会をもっとおもしろくしたいと立ち上げたのが「み・らいず」で、ただいま特定非営利法人申請中です。

【活動内容】

- ・ 障害を持つている、あるいは学校に適応するのが難しい子どもへの「ラインメイト」派遣（一緒に勉強したり出かけたります）
- ・ イベントの企画、実行
- ・ 障害を持った人への介助者派遣

・移動サービス（でもリフト車はまだ手に入れていません。助成申込み中……）

・相談業務

・情報提供

会費や利用料については直接お問い合わせください。（月～金、9時～17時）

「み・らいず」の名前には「未来図」と「Me||私、Rise||昇る、あがる」という意味が含まれているのです。

「自分たちの『未来図』は自分たちで描きましょう！ そのために『み・らいず』を使ってください。それはわたくしたちの『未来図』でもあります！」と代表の河内さんはいう。

さて、どんな活躍をしてくれるのでしょうか・・・乞うご期待！

○問い合わせ先

大阪市住之江区南加賀屋4-4-19

TEL & FAX 06-6683-5533

e-mail

me||rise@abox8.soin

et.ne.jp

代表||河内崇典
かわうちたかのり

きさみみずさん

「さろん亭」開店

暑中お見舞い申し上げます。
皆様には、お変わりございませんか。今年の梅雨は、雨が少なく、暑さは厳しく、梅雨時でも37℃前後の日も珍しくありませんでした。朝の天気予報でその日の温度予想が出ます。その時33℃まではゆるそう夏なんだからと思い、35℃前後になると辛抱しよう、そんな日もあるだろうと考えますが、それ以上は金魚のアブク吹きのように口ほくばくの一日になります。他家ではクーラーで涼しい日々を過ごしておられ、家を出ない限り快適な毎日と思いますが、我が家は未だにクーラーもなく、扇風機も嫌いときは暑さに耐えるのみの毎日です。しかし、この暑さも時と場所を選べばそれも楽しいと思えるのですから不思議です。例えば夏恒例のあべの力一二バル。汗も瞬時に乾いて砂が付いたようになる「なんでも市通り」の「さろん亭」では、暑さを感じる暇もないほどお客さんの応対に忙しくなります。年に一回、この会場だけでお目にかかれる人、久しぶりに出会う人、○○さんを目当てに来られる人、日用品をまとめ買いに来てくださいる人などなど。

「元氣？」の一言で暑さも忘れて、訪れてくださる方の笑みに誘われて笑顔がこぼれます。来月（8月12日）の第二日曜日は、「さろん亭」開店です。皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

(け)



サロン隣組ニュース

■「サロン・淀川」8月の出会い

日時:8月11日(土) 午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容:真夏はアッチチのたご焼き、今年も焼こう
~焼くのもよし、食べるのもこれまたよし、みんなで
ワイワイガヤガヤ楽しくやろう~

パネラー:宮本志津代氏

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:kubota53@nbox.inet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」8月の出会い

日時:8月25日(土) 午後1時30分~4時

場所:にこにこセンター3階

大阪市平野区平野2-1-30

内容:坂口さんとゆかみゆな仲間たちの劇

会費:100円

申し込みと問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」8月の出会い

日時:8月11日(土) 午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー 室

大阪市西成区北堀江4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:頭の体操 ~パズルやクイズ、その他雑問題を
楽しもう!~

会費:なし

問い合わせ先:高陽 ☎06-6537-0241

■「サロンつるみ」8月の出会い

日時:8月5日(日) 午後1時30分~4時

場所:鶴見会館

大阪市鶴見区横堤5-5-51

内容:未定

会費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村 ☎06-6913-7070

■「サロン『アイ』8月の出会い

日時:8月11日(土) 午後1時30分~午後4時

場所:生野在宅サービスセンター

「おかちやま」2階ビューロー室

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容:祖霊祭でコンチキチン ~雅集でおごそかに~

パネラー:武直樹氏

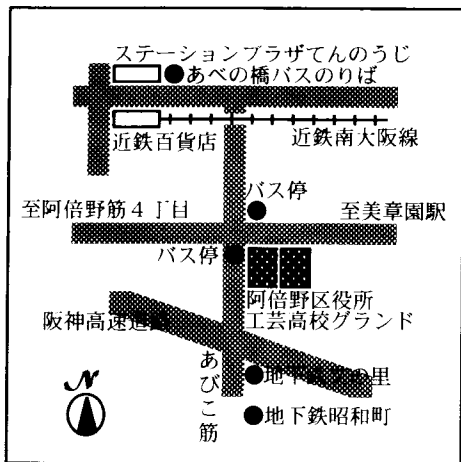
会費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

■「サロン・いたみ」8月はお休みです。

■「てくてく・すみよし」8月はお休みです。



おしらせ

▲サロン・あべのV8月の出会い
日時 8月12日(土) 午後3時~6時
場所 〓あべのカーニバル
「なんでも市」通り
「阿倍野区役所裏」
「工芸高校グラウンド」
内容 〓バザー店「さろん亭」開店
皆様との出会いを楽しみにご来店
を、お待ち申し上げます。

お問い合わせ先 〓
TEL 06-6691-1028 (富田)

2001 8 AUGUST

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
✓ 12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月12日(午後3時)はみんなそろって、あべのカーニバル
なんでも市通りの「さろん亭」へ、買い物に行く日です。

連絡先：富田慶子 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06・6691・1028

✓
八月十二日にチェック

編集後記
FROM EDITOR

「聴導犬みかんちゃん満点初乗車」の見出しで、耳の不自
由な人を手助けする聴導犬「みかん」とともに生活する岸
本淑子さんが、阪和線にみかんと一緒に初めて乗車した。

聴導犬の車内同伴は大手鉄道会社で初めて。・・・の記事と、岸本さんの足元に寄り添い、
岸本さんを気遣う黄色のベストを着たみかんの写真が、朝日新聞に。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.181 [H.13. 7.21.発行]定価¥100.
代表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071
連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028
表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941
印刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミタ-DEN2F TEL06-6719-8212